

2002年9月9日

ロジスティクス クロニクル

"使えるシステム" 提供 現場系システムと基幹系システムを連動～日本ロジファクトリー～

日本ロジファクトリー(青木正一社長、大阪府中央区)は顧客が求める機能やデータをより正確にシステムに盛り込むため、ロジシステムデザイン事業部を設置した。初年度売上目標は3000万円。

同社はこれまで、コンサルティング業務の一環として、物流系システムの企画、提案を行っていた。しかし、業務が立案までのため、システム構築の過程で「実際のシステム内容が狙いから若干ずれてしまったり、システムエンジニアが物流現場を知らないために実状に即したソフトを選びきれていないなど問題点が生じていた」(石橋岳人取締役 ロジシステムデザイン事業部担当)。

例えば酒類の卸業者にとって、配送先は同じ雑居ビルに何ヵ所も入っている。しかし、ソフトによっては1ヵ所配送後、最寄りの信号に戻って同じ雑居ビルに配送するシミュレーションがプログラムされている。実際には一度で複数の配送先への配達が可能であるのに、何度も後戻りするようなプログラムでは効率的な配送ルートのシミュレーションは不可能だ。

業種によって適切なソフトが変わるのは当然。当社は現場を熟知し、幅広いソフトの選択肢から最も適切なものを選ぶことで、他社との差別化を図る」と石橋取締役は話す。

同社は出荷検品や棚口ケーション、リアル在庫管理、マーケティングドライバーなどの現場系システムと、基幹系システムを連動させたシステム構築を行う。システム開発から導入まで最短6ヶ月、費用対効果は1年での回収を目指すとしている。

また、ロジシステムデザイン事業部は現在、石橋取締役を含め2名だが、システムエンジニアを1名採用し、ニーズに応じて既存ソフトの組み合わせで廉価にシステムを構築する。全く新しいシステムを独自に構築するものの2パターンに応える体制を整える。さらに「どれだけ良いシステムを導入しても、現場が使いこなせなければ不要」(石橋取締役)との認識に基づき、同社はとくにシステムの使用方法をきめ細かく指導する方針だ。

問い合わせ先は06-6245-3368。